

監査対象機関	監査の結果	講じた措置
人事課 市町村総室	<p>地域振興局の集中管理システム</p> <p>地域振興局の公用車の管理は、現在各課で行われ、利用状況についても管理している課の利用が大部分であり、他課による利用が全くないところが2カ所もみられるなど、全体的にみても十分効率的に利用されているとはいえない。</p> <p>そこで、職員が他の部や課の公用車を容易に利用し、より一層効率的な利用ができるよう、集中管理システムの構築（例えば、会議室の予約等で利用されている電子メールシステムを活用したようなもの）を検討する必要がある。</p> <p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>公用車の集中管理システムの構築については、「補助金等に係る予算の適正化に関する法律」により、現時点で構築することは困難である。</p> <p>しかしながら、公用車のより効果的・効率的な利用については、利用頻度等により公用車の配置転換を行うなど引き続き検討を行うこととする。</p> <p>年式が古いため性能が落ちるなどの理由により、利用日数が少ない公用車もあり、これまでも修理費用等を勘案し、廃車すべきものは、廃車手続きを行っている。</p> <p>今後とも、公用車の管理に当たっては、利用頻度を確認するなどにより、適正な管理に努める。</p>
人事課	<p>更新基準の適用除外の検討</p> <p>更新基準の走行距離を満たしていないことから、更新年数を大幅に超えて利用されている車の一部に、故障等で修理費用が多額になる事例がみられる。</p> <p>更新基準年数を大幅に超えて老朽化している車については、個別に更新を検討する必要がある。</p>	<p>公用車の更新については、原則として一定の走行距離と耐用年度を満たした場合には実施しているが、これまでも老朽化等により管理経費が高額となる場合や安全性に問題がある場合などは、基準を満たしていない場合であっても更新を行ってきている。</p> <p>公用車の更新については、今後とも個別に状況を判断して対応していく。</p>

監査対象機関	監査の結果	講じた措置
健康増進課	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>健康増進課には、当該普通乗用車のほかに運動指導用車両として大型特殊車両が配備されているが、専任運転手の配置が1名のみであるため、大型車両が稼働する間は普通乗用車は使用できない事情がある。</p> <p>平成13年度から該当課で使用する以外に部内各課で使用するよう働きかけており、その結果、平成13年度の使用日数は107日と増加した。</p> <p>今後とも有効活用に努めたい。</p>
障害保健福祉課	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>1台については、身体障害者福祉センターで使用している身体障害者送迎用の車であり、各種行事等に身体障害者が参加する場合にのみ使用するため使用日数が限られている。</p> <p>他の2台については、それぞれ知的障害者及び精神障害者の授産施設で使用されている車であり、授産製品の材料運搬や製品配達の使用に限定されているため授産種目や需要が増えない限り、使用日数を増やすことは困難な状況にある。</p> <p>このように上記3台の公用車については、特殊事情があるものの有効活用に努めたい。</p>
環境政策課（熊本県環境センター）	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>環境センターにおいては、「動く環境教室事業」など、水俣市から県内各地まで遠距離の出張を伴う業務が多く、公用車の需要は大きい。しかしながら、12年度までは交通手段として自家用車を用いる場合が多かったため、極力公用車を活用する措置を講じたところ、12年度と13年度の実績の比較において利用日数が42日→51日、走行距離が2,936km→6,265kmと伸びている。</p> <p>13年度は年度途中からの取り組みであったため、日数等の伸びは充分でないが、14年度も引き続き公用車の利用促進に努めていく。</p>

監査対象機関	監査の結果	講じた措置
消費生活センター	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>啓発講座では、レジュメや啓発パンフレット等の荷物があるうえ、公共交通機関での移動では不便な場所も多い。また商品テストでは苦情商品や実験器具の移動が必要な場合もあり、商品調査などもバス・タクシー等の利用は適さない。そのため、公用車の需要は大きい。しかしながら、13年度までは、本庁をはじめ関係機関との打ち合せ及びテスト調査等には積極的に活用していたものの、啓発主査が免許を持たなかったため利用日数が伸びていなかった。</p> <p>14年度は、啓発主査も免許所持者になり、年度当初から、熊本市内に限らず公用車を利用するよう徹底を図っており、実績は伸びることが予想される。</p>
工業技術センター	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>平成11年度末に専任運転士が退職し、共用車として利用しているが、マニュアル車の運転経験がない職員の利用が少ないことが挙げられる。</p> <p>このため、職員に対し、マニュアル車運転技術の習得と利用を促し、併せて出張時における公用車使用の有無をチェックし、積極的な利用促進を図ることとしている。</p>
農業大学校 畜産課 農業研究センター	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>農業研究センター配置の資材運搬、家畜・卵等運搬及び学生の現地実習送迎として利用されている公用車については、その用途が特定されるため使用日数が少ない傾向（100日未満）がある。</p> <p>しかし、各事業所ではその用途に応じて必要不可欠なものであるため、減車は行わず今後も引き続き利用することとしたい。</p> <p>ただし、農業大学校の阿蘇校舎での学生・職員送迎用車両については、平成13年度から阿蘇校舎が本校に統合された事情があり、それ以降は未使用となっているため、減車の方向で調整中である。</p>

監査対象機関	監査の結果	講じた措置
林業研究指導所	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>「軽トラック」は、主に本所近隣の試験地（苗畑等）への資材等搬送、木材市場からの小型試験材搬入に使用。</p> <p>普通車では運搬できない資材等があり、トラックは欠かせないが、「軽」では長距離での輸送、又、試験材等の大型化に伴い、使用を制約されるケースもある。</p> <p>このため、軽トラックの更新時には、全てのケースに対応できる普通トラックへの切替も考慮して、有効な活用が図られるよう検討する。</p>
水産研究センター	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>「トラック」は大型多量の調査機材、試験漁用の活魚タンク、凍結餌料等を主に搬送。</p> <p>車輻には、干潟、海浜など道路以外の使用やのり網等の運搬をするため、FRP加工を施している。</p> <p>各年度の使用日数は、当該年度の試験研究内容によって異なり、又、特殊な使用形態・車輻であるため、水産研究センター（大矢野町）、内水面研究所（城南町）に各1台は必要。</p> <p>水産研究センター配置車輻については、更新時に、適当な人員と大型調査機材等を搬送できる兼用車輻により、2台（現行）を1台（兼用車）にできないか検討する。</p>
熊本土木事務所	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>失業対策事業用として購入されたものであるが、本来の業務は終了しており、必要性等を考慮のうえ減車を検討する。</p>
産業開発青年隊	<p>公用車の減車</p> <p>利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。</p>	<p>訓練指導用として利用されているものであるが、更新時に必要性等を考慮のうえ減車となるよう検討する。</p>

監査対象機関	監査の結果	講じた措置
釈迦院ダム建設事務所	公用車の減車 利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。	釈迦院ダム建設事務所の公用車については、必要性和利用頻度を検討して、平成13年度末に1台の公用車を廃車した。(2台から1台に減車)
熊本港管理事務所	公用車の減車 利用日数が少ない公用車は、職場における車利用の必要性、頻度等を考慮し、減車を検討する必要がある。	港湾パトロール用として利用されているものであるが、港湾整備事業の進捗が進むにつれ、利用日数は増加するものと思われる。 なお、港湾パトロールを計画的に行い、より効率的な利用を図る。